協　会　報

日本林業

● 2023年　2月号 ●
発行日：2023年　2月　6日

発行：一般社団法人　日本林業協会
〒 112-0004
東京都文京区後楽 1-7-12　林友ビル3階
TEL. 03-6801-8931 FAX. 03-6801-8932
編集･発行人　島田　泰助

協会からの情報提供は

- **一般向け情報誌**
  『森林と林業』
  （毎月25日発行）
- **会員向け情報誌**
  『協会報日本林業』
  （毎月5日発行）

いずれも土日祭日は繰り下げ発行となります。

目次：

2023ミス日本みどりの大使に 上村さや香さん	1
中央林業団体 緑の募金協力会 代表世話人会を開催	2～4
林業協会定時総会 開催案内 国会･業界 行事日程（1月）	5

『2023ミス日本みどりの大使』に

上村（かみむら）　さや香（さやか）（24歳）さん

今年の『ミス日本みどりの大使』は、慶應義塾大学の大学院二年生の上村さや香さんが選ばれました。今まで「みどりの女神（めがみ）」として親しまれてきたミス日本のポストでしたが、ジェンダー平等の観点から、今年から「みどりの大使」に変更されました。女神としては９代目、大使としては１代目に選ばれた上村さや香さんは、「女神という呼称は魅力的ですが、女神という言葉には何かを待っているというイメージもあります。大使は能動的に動く意味合いがあり、私には合っていると思います。みどりの大使として思いっきり役割を果たしていきたいと思います。」と今年の活動に向けての抱負を語っています。

なお、１月23日に新宿京王プラザホテルで開催されたミス日本コンテストでは、最高位となるミス日本グランプリに兵庫県芦屋市在住の関西学院大学二年生の吉岡恵麻（よしおか　えま、20歳）さん、ミス着物に寺嶋琴（てらじま　こと、20歳）さん、「みずの天使」に竹田聖彩（たけだ　せいあ、20歳）さん、「海の日」に稲川夏希（いながわ　なつき、21歳）さん、準ミス日本に東海林杏朱（とうかいりん　あんじゅ、17歳）さんがそれぞれ選出されました。

中央林業団体緑の募金協力会
代表世話人会を開催

緑の募金運動を推進するため、「中央林業団体緑の募金協力会（会長：島田泰助日本林業協会会長）」が、２月１日（水）、砂防会館において第６２回の代表世話人会を開催しました。
会議の冒頭、島田会長から、『令和４年も、中央林業団体緑の募金協力会の協力のもと、国土緑化推進機構と都道府県緑化推進委員会が連携し、緑の募金運動の展開に取り組んだところです。
令和４年の中央募金は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しているものの、前年よりやや増加し、約３億７千万円とのことです。都道府県募金については、主力の家庭募金などで引き続き苦戦を強いられ、中央募金、都道府県募金を含め全国で、前年から微増の２０億円強とのことです。
そのような状況下にあっても、林業団体、とりわけ代表世話人の皆様からご協力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。
緑の募金は、「国民参加の森林づくり」の中核的な推進手段ですが、募金額は近年減少傾向にあります。国土緑化推進機構には、キャッシュレス化や非接触型に対応するなど、募金手法の多様化をお願いしています。
さまざまな募金方策を拡充し、個別企業などに協力を呼びかけるなど、積極的な取組を展開していただき、中央林業団体緑の募金協力会としても協力していく必要があると考えています。
いよいよ令和５年春の募金シーズンがスタートします。様々な社会的役割が期待されている緑の募金運動を一層拡大するよう、森林・木材団体の中核として、格別のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。』と、令和５年みどりの募金運動への協力依頼がなされました。

令和４年（主として秋期）の取組み及び令和５年（春期）の取組みについては、以下のとおりです。

Ⅰ　令和４年（主として秋期）の取組み

国民の森林づくりへの関心を、緑を守り育てる具体的な活動に結びつけるため、国土緑化推進機構と都道府県緑化推進委員会が連携し、企業や森林ボランティア団体など広範な国民の協力を得て募金活動を展開するとともに、多様な募金事業を実施した。
特に、森林づくりや緑化への関心と理解を高めるとともに、SDGsの達成や2050年カーボンニュートラルの実現には森林が重要な役割を担っていることなどを分かりやすく伝え、CSR活動、SDGs、2050年カーボンニュートラル及びESG投資等に対する企業の関心の高まりに対して、効果的に働きかけるよう努めた。

１　普及啓発・広報

（１）　全国キャンペーン

「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに、「森林を守る 森林を活かす」のポスター・キャッチコピーも活用し、「緑の募金キャンペーン2022秋」を募金期間中に実施した。

（２）　広報活動

ホームページやSNSを充実し、情報誌「緑の募金だより2022 秋」を発行・配布した。

（３）　普及啓発

「森の教室」を、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しつつ11県24箇所で開催し、1,032人の園児が参加した（7月～12月末）。

２　募金活動

（１）　使途を限定した募金の呼びかけ

自然災害の被災地の復旧支援やSDGs達成への貢献など、全国的又は地域的課題で、募金の成果が具体的に目に見える事業についてニーズを開拓し、使途を限定した募金を要請した。

（２）　募金方法の多様化

多様な募金機会を提供するため、寄付金付き等の協賛商品による協賛募金及びスマホアプリの活用等を推進した。

３　募金実績

令和4年の中央募金は、企業等からの募金（企業募金、協賛募金）等を含め、募金額合計が約370百万円前年比105%）となった。
全国での募金総額は約2,007百万円（前年比100%）となる見込みである。

前ページからのつづき

Ⅱ　令和５年(春期)の取組

１　普及啓発・広報活動

「緑の募金で進めようSDGs」をスローガンに、「森林を守る 森林を活かす」のポスター・キャッチコピーも活用し、広く緑の募金を通じた国民参加の森づくりを呼びかけることとする。

（１）　全国キャンペーン等

①　緑の募金キャンペーン

「緑の募金キャンペーン2023春」等のキャンペーンを実施する。

②　国土緑化写真展の開催

緑化活動に対する各地域の努力により緑が再生された歴史を伝え、森林整備や緑化の重要性などの理解を醸成するため、写真展「日本の森林いまむかし～蘇る山々の緑～」を開催する。

③　「つなぐ･広がる　緑のリレー･プロジェクト」の実施

全国の幼稚園を巡回する「森の教室」を都道府県緑化推進委員会と協力して開催する。特に、全国植樹祭、全国育樹祭開催との連動や未実施地域への拡充を図る。

（２）　広報活動

①　雑誌、ホームページ、SNSなどを活用した広報を充実し、団体等機関誌・広報誌、企業の協賛広告等との連携を図る。また、東日本大震災等の自然災害による被災地の支援関係のホームページを充実する。

②　ラジオCMの全国放送などにより、積極的に情報を発信する。また、地域の実態に応じて共通VTRを使用した地方放送局でのTVCMを実施する。

③　緑の募金情報誌（「緑の募金だより 2023春号」）の発行　2万部

（３）　共通資材の整備

①　緑の募金ポスター

「森林を守る 森林を活かす」　4.8万枚

②　その他普及啓発用資材

新規作成に加え、これまで作成した普及広報資材の有効活用も図る。

２　募金活動の展開

（１）　募金期間及び全国一斉強調月間の設定

①　募金期間

国民の緑化気運の高揚にあわせ、春期募金期間を1月15日～5月31日とする。

②　緑の募金全国一斉強調月間

国民の緑への関心を募金活動への参加に結びつけるため、「みどりの月間」(4月15日～5月14日)の期間を「緑の募金全国一斉強調月間」として設定する。

（２）　募金活動の重点化

①　募金箱の設置拡大

全国どこでも、誰でも募金できるよう、事務所、店舗、公共施設等に募金箱の設置を要請する。また、緑の募金・緑と水の森林ファンド助成事業実施団体に、募金活動への協力を強く求める。

②　使途を限定した募金の実施

自然災害の被災地の復旧支援など、全国的又は地域的課題に対応して、募金の成果がより具体的に目に見えるような使途を限定した募金を実施する。

中央募金として東日本大震災等の自然災害による被災地支援やSDGs達成への貢献に充てる使途限定募金への協力を要請する。

③　企業への働きかけ

企業のCSR（社会的責任）やSDGs及び2050年カーボンニュートラルへの意識の高まりに対応し、森林づくり全国推進会議の機会等を活用し「企業の森づくり」等と連携した募金要請を行うとともに、ホームページ等でのPRの充実を図る。

④　募金方法の多様化

寄付金付き等の協賛商品などによる協賛募金やポイントによる寄付等を推進するとともに、スマホアプリの活用を進める。

⑤　家庭募金、職場募金、学校募金等の拡大等

地方募金の太宗を占めている家庭募金、学校募金等の維持・拡大を図る取組を推進するとともに、③④

前ページからのつづき

の取組と連携しつつ企業募金の拡大を図る。

⑥　新型コロナウイルス感染症対策

募金活動の実施に当たっては、関係する政府等のガイドラインなどに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。

（３）　「緑の募金」成果情報の提供

①　緑の募金の使途及び成果（募金による森林の整備面積やSDGsへの貢献等）や緑の募金に関する情報を、ホームページなどを活用して積極的に提供する。

②　自然災害の被災地支援やSDGs達成への貢献の使途限定募金について、募金状況や事業の実施状況等についてホームページなどで公表する。

③　緑の募金への協力者（個人、団体）に対し、「緑の募金顕彰要綱」に基づき顕彰する。

３　緑の募金中央事業計画

①　中央事業は、全国的又は国際的見地からモデル効果の大きいものを実施する。この場合、各地における森林づくり活動の状況に着目しつつ、中央事業の適切な配置に配慮する。

②　直接事業は、政策効果に着目し、森林サービス産業による山村振興の推進など国の政策課題も踏まえ、社会的課題に対応した事業を実施する。

③　公募事業は、森林づくり活動の拡大、多様化・高度化に資する事業を募集することとし、都道府県緑化推進委員会からの積極的な推薦を期待する。

・令和4年度より開始した花粉症対策に資する「スギ等森林の有効活用支援事業」を引き続き実施する。

・新たに、森林づくりの次世代育成をめざす「つながる、つなげる、子ども若者応援事業」を実施する。

④　募金事業の実施に当たっては、寄付金の効率的な使用を旨とし、SDGs達成への効果的な貢献を図る。また、地域の状況を踏まえ、関係する政府等のガイドラインなどに基づき、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、必要に応じて、オンラインでの実施等も検討する。

⑤　公募スケジュールは昨年と同様に、2月1日から3月15日とする予定である。

４　募金要請行動計画

（１）報道機関、公共交通機関等への協力要請

①　日本放送協会、日本民間放送連盟、日本新聞協会

②　JR各社等

（２）各種団体等への協力要請

①　中央官庁、林業団体、中央農水団体等

②　大手企業、公共施設（道の駅等）

（３）募金協力をお願いする企業や募金啓発ができる行事等の紹介要請

①　林野庁緑の募金推進本部

②　代表世話人会等

緑の募金

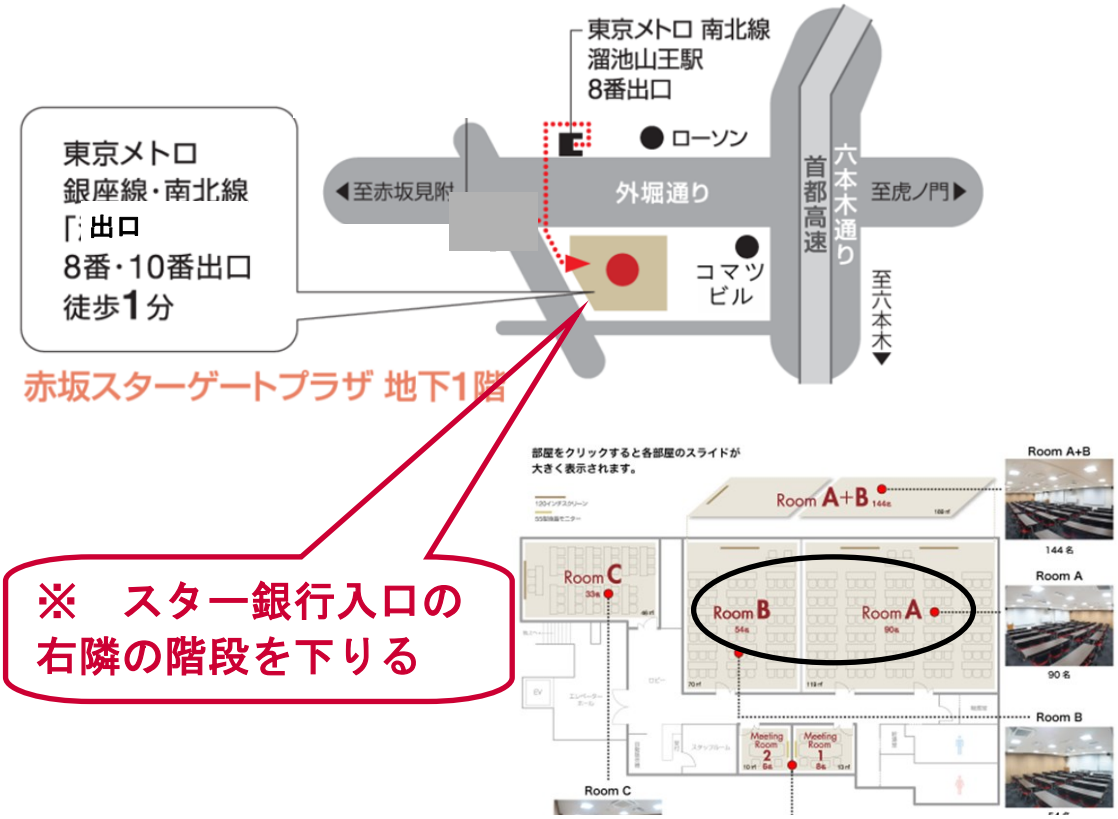
「緑の募金」の活動は、緑豊かで活力のある、
誰もが安心して暮らせる未来をつくるためにSDGsに貢献します！

緑の募金で進めよう SDGs

（一社）日本林業協会　定時総会のご案内

（一社）日本林業協会は、下記の日程で令和５年度の第１０回定時総会を開催します。新型コロナウイルスの感染防止に配慮しつつ正会員及び賛助会員の参画を得て実施します。

日時：令和５年２月２８日（火）１３：３０～１５：００
場所：赤坂スターゲートプラザ　B1　Room A&B
〒107-0052　東京都港区赤坂2-3-5



令和　5年　1月　国会の動き

《国会関連》
23日（月）開会式　（政府四演説）
24日（火）参・決算委
25日（水）衆・本会議（代表質問）
26日（木）衆・本会議（代表質問）
　　参・本会議（代表質問）
27日（金）参・本会議（代表質問）
30日（月）衆・予算委（基本的質疑）
31日（火）衆・予算委（基本的質疑）
≪政党関連》
25日（水）公・農林水産物の輸出促進に関するプロジェクトチーム（ヒアリング：全国菓子輸出促進協議会、日本木材輸出振興協会）
25日（水）自･政調/総合農政/農林部会（国会提出法案、農業白書、森林･林業白書）
26日（木）公･農林水産部会（国会提出法案）

令和　5年　1月　業界の動き

12日（木）令和４年度山地災害防止標語及び写真コンクールの受賞者発表（日本治山治水協会）
12日（木）森林総研リリース「シカの増加がツシマヤマネコのマダニ媒介感染症リスクを高める？」
23日（月）第55回ミス日本コンテスト2023
京王プラザホテル　エミネンスホール